

こども未来コース

〔概要〕：子どもが誕生してから大人になる手前である思春期までの成長過程に関する心理学の考え方や研究を紹介します。小児科学（心理学、小児医学、脳科学）が明らかにしつつある赤ちゃんの能力、カウンセリング過程との並行性が注目される親子のやりとり、保育・教育現場において確認されている遊びや学びの意義、心理学が多面的に取り組む思春期の大切さと難しさなどについて考えていきます。

〔対象〕：子育てをされている方、されようとしている方、終えられた方と子どもの成長や教育に関心がおありの方を対象にしています。

〔講師〕：広島国際大学 健康科学部 心理学科 准教授 鹿嶋 達哉

回数	日時	講座名	講座内容
1	6月2日(金) 10:40-12:10	足し算ができる？赤ちゃん ～乳児の不思議な能力～	昔は赤ちゃんは「何もできない」「白紙」と考えられていましたが、最近の研究から赤ちゃんは触って・嗅いで・味わって・聞いて・見て、体を動かして外界を学んでいくことが明らかにされつつあります。赤ちゃんの優れた能力について考えていきます。
2	6月16日(金) 10:40-12:10	一人の赤ちゃんはいない ～親子の不思議なつながり～	子どもと養育者は五感と運動を通じて、ことばと発声を使いながらつながっています。あやす行為は養育であると同時にコミュニケーションでもあり、両者のやりとり（相互作用）にもなっています。子どもと養育者のつながりについて考えていきます。
3	7月7日(金) 10:40-12:10	遊んで学ぶ、遊んでわかる ～幼児期の遊びの大切さ～	子どもは自分から進んで楽しみながら遊ぶことで、自然・環境、人や自分の気持ち、社会のきまりやルールを学び、さらに自主性や主体性を身につけます。また、遊びの中で自らの課題に取り組み、解決していきます。遊びの大切さをことばで確認していきます。
4	7月21日(金) 10:40-12:10	ちゃんと学校でやっている？ ～学校で体験する4つのこと～	コロナ禍による休校明けの子どもの表情を見ると、学校の大切さがよくわかります。学童期（6～12歳）に家を出て、教師の指導のもと、友だちと生活しながら、学ぶ（勉強する）学校生活の意義をあらためて考えていきます。
5	9月1日(金) 10:40-12:10	どうしてわからないと言われるけれど ～わかるって難しい～	学んだことや教えてもらったことはなかなか身につけません。わかる仕組みとわかりにくくなる原因や理由から、わかりやすくなる工夫と教えるときに配慮する必要がある事柄について考えていきます。
6	9月15日(金) 10:40-12:10	やる気がでない ～意欲の心理学～	「学びからの逃走」「無気力」などやる気（動機づけ）の低さが問題とされる子どもでもゲームやスポーツなど「はまった」ものには打ち込みます。大人がやる気を育てるつもりでも逆に削いでしまうこともあるようです。やる気のしくみとやる気を削がない対応を考えます。
7	10月6日(金) 10:40-12:10	行動を変えてみる ～手がかりと反応が決め手～	行動を変えるには内（こころ）から変える方法と環境（からの反応）を変える方法があります。基本的な学習理論（行動と環境との関係を扱う）とその日常生活や教育場面への応用（行動療法の基本）について考えていきます。
8	10月20日(金) 10:40-12:10	子どもでもない大人でもない ～思春期における大変化～	思春期は子どもが大人になる難しい時期です。身体が急激に変化し、考え方、感情が動揺しながら成長します。持物や居場所などの環境、親・教師・仲間・異性との人間関係、求められる役割も大きく変わります。思春期の子どもと周囲の環境の変化について考えていきます。
9	11月10日(金) 10:40-12:10	学校に行きたくない ～思春期における不登校～	中学校のクラスに1～2人は不登校の子がいます。しかし、行かない理由も気持ちも周囲の人だけではなく本人にもわかりにくいものがあります。「学校に行きたくない」気持ちと周囲の対応について考えていきます。
10	11月17日(金) 10:40-12:10	ダメ、間違い、つらい、いつわり ～悪とつきあう～	思春期の子どもは非行や逸脱など「悪」に近づきます。悪いことをしなくても、自分や周囲は「ダメ」「間違っている」「つらい」「いつわり」だと悩みます。思春期に避けられない悪との関わり（接し方、つきあい方）を考えていきます。

※留意事項

原則、6・7・9・10・11月の第1・第3金曜日（呉キャンパス 10:40～12:10）の開講となります。